



資料4

認知症バリアフリー情報交換会・交流会 実施報告書

1. 事業の背景・目的

- 令和4年度の老健事業において実施した、認知症バリアフリー宣言企業・団体を対象に実施したヒアリング調査では、「認知症本人、家族のニーズを取得する機会」や「登録企業同士の情報交換の機会」を求める声があがっていた。
- こうしたことから、地域共生社会の実現に向け、認知症バリアフリーに取り組む企業・団体同士の密な情報交換、関係構築を図っていただくことを目的に、日本認知症官民協議会に参画する団体や、厚生労働省が進めている「認知症バリアフリーWG」関連企業・団体に加え、経済産業省が進める「認知症イノベーションアライアンスWG」関連企業等にも声がけを行い、認知症バリアフリー情報交換会・交流会を開催した。
- なお、当日の講演資料については、[官民協議会のウェブサイト](#)で公開中であり、今後当日の録画映像についても公開予定。

2. 実施概要

日程	2023年11月30日(木) 情報交換会 :15時30分～17時50分 交流会 :18時00分～20時00分
場所	AP新橋 Eルーム(情報交換会)、Bルーム(交流会) 住所:東京都港区新橋 1-12-9 新橋プレイス
開催方式	現地+オンライン配信のハイブリッド
参加者	認知症官民協議会参加団体 認知症バリアフリーWG関連企業・団体 認知症イノベーションアライアンスWG参加企業 自治体 他 厚生労働省 経済産業省 ※参加組織・団体の一覧はスライドNO.17・18を参照
その他	交流会は参加者の費用負担により実施

3. 当日の参加者数

■情報交換会参加者数:144名

- 現地会場参加 :77名(登壇者、関係者含む)
- オンライン参加:67名(事前申込者ベース)

当事者団体、認知症関連団体、金融、保険、医療/福祉、小売、IT、住宅関連、警備、研究開発、製造、自治体、報道関係者など幅広い業種が参加

■交流会参加者数: 63名(現地会場のみ。関係者含む)

4. 当日のプログラムと登壇者

TIME	SCENE	CONTENTS	CAST(敬称略)
15:00	開会		司会:地域共生政策自治体連携機構 石井 信芳
15:30	開会挨拶		厚生労働省 認知症総合戦略企画官 尾崎 美弥子
15:37	講演①	認知症バリアフリー関連施策の動向①	厚生労働省 認知症総合戦略企画官 尾崎 美弥子
15:56	講演②	認知症バリアフリー関連施策の動向②	経済産業省 課長補佐 小柳 勇太
16:13	舞台転換(休憩)		
16:18	ラウンドトーク	認知症の人に優しい社会とは ～地域共生社会の実現に向けて 企業に求められること～	登壇者: ・(一社)日本認知症本人ワーキンググループ 藤田 和子 ・(公社)認知症の人と家族の会 鎌田 松代 ・株式会社イトーヨーカ堂 強矢 健太郎 ・大和ライフネクスト(株) 田中 昌樹 ・(株)大起エンゼルヘルプ 和田 行男 ・SOMPO ホールディングス(株) 田辺 敬章 ・豊田市役所 橋本 一磨 モデレーター:地域共生政策自治体連携機構 北村 肇
17:10	舞台転換(休憩)		
17:15	事例発表	認知症バリアフリーな商品・サービス開発の実践から	司会 : (株)日本総合研究所 高橋 光信 発表者: ・KAERU(株) 福田 勝彦 ・ライオン(株) 小倉 あい ・(株)オールアバウトライフワークス 三宅 学 ・ユニバーサル・サウンドデザイン(株) 中石 真一路 ・LOOVIC(株) 山中 享 ・Hubbit(株) 臼井 貴紀
17:50	閉会		

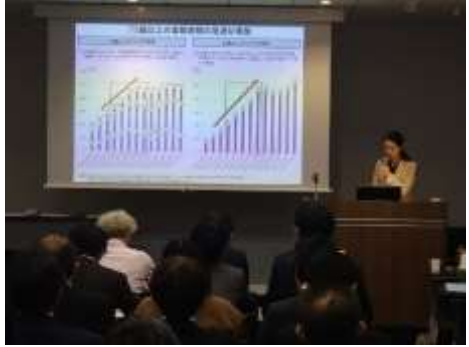
5. 情報交換会の様子 ①

■ 開会挨拶 (厚生労働省 老健局 認知症総合戦略企画官 尾崎 美弥子氏)



- 厚生労働省 尾崎企画官による開会の挨拶。

■ 認知症バリアフリー関連施策の動向① (厚生労働省 老健局 認知症総合戦略企画官 尾崎 美弥子氏)



- 厚生労働省 尾崎企画官より、共生社会の実現を推進するための認知症基本法や認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議の紹介の他、厚生労働省が進める認知症バリアフリー関連施策についての紹介が行われた。

■ 認知症バリアフリー関連施策の動向② (経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 課長補佐 小柳 勇太氏)



- 経済産業省 小柳課長補佐より、経済産業省が進める認知症イノベーションアライアンスWGにおける認知症当事者参画型開発に向けた取り組みの紹介が行われた。

5. 情報交換会の様子 ②

■ 認知症の人に優しい社会とは ～地域共生社会の実現に向けて企業に求められること



- 前半は登壇企業による取組紹介が行われ、藤田氏(日本認知症本人ワーキンググループ)、鎌田氏(認知症の人と家族の会)が各企業が実践する認知症バリアフリーの取り組みに対しコメントを述べた。後半はラウンドトークが行われ、企業が認知症バリアフリーに取り組むためのポイントについて意見交換が行われた。

■ 認知症バリアフリーな商品・サービス開発の実践から



- 認知症イノベーションアライアンスWGの取り組みの一環として進められているオレンジイノベーション・プロジェクト採択企業6社が登壇し、認知症バリアフリーを推進する製品・サービス等の開発状況、実践状況について紹介を行った。

6. 交流会の様子

■ 認知症バリアフリー交流会



- 情報交換会終了後、場所をBルームに移して登壇者、参加者による交流会が行われた。会場後方には参加企業・団体の紹介コーナーも設置した。
- 認知症バリアフリーWG関連企業・団体と認知症イノベーションアライアンスWG関連企業・団体が一堂に会して交流を行う初めての機会だったこともあり、終了間際まで活発な意見交換、情報交換が行われていた。
- これまでこうした接点がなかった認知症バリアフリーWGと認知症イノベーションアライアンスWGをつなぐ貴重な機会となったようで参加者からは非常に好評であった。また、多くの参加者から次回情報交換会の早期開催を期待する声も聞かれた。

7. 参加者アンケートの結果

■ アンケート回答者数

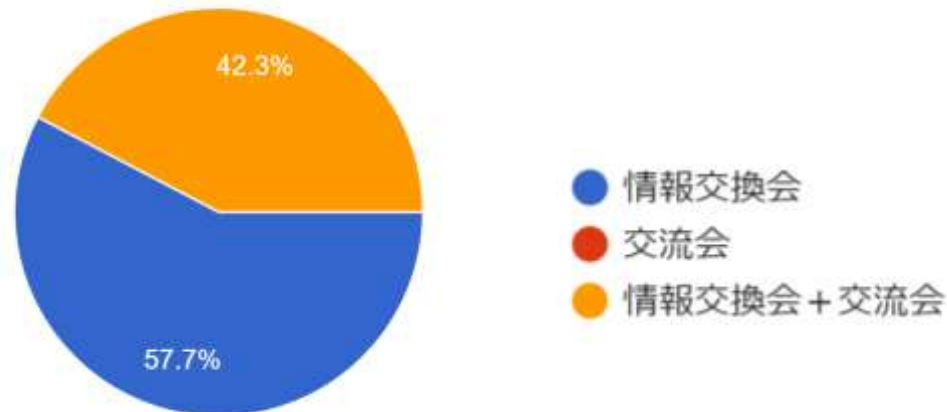
※情報交換会・交流会終了後にメールにてアンケート(送付総数:100件)を実施

回答者全数 : 26名 うち 情報交換会のみ参加 : 15名

情報交換会 + 交流会参加 : 11名

今回はどのプログラムに参加されましたか。

26件の回答



7. 参加者アンケートの結果

内容には満足されましたか？

情報交換会 (回答人数26名)

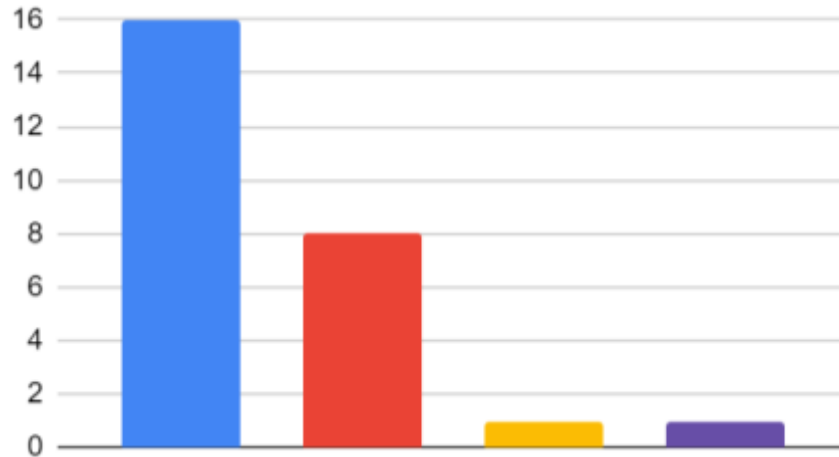
非常に満足した：16名

満足した：8名

どちらでもない：1名

満足しなかった：0名

まったく満足しなかった：1名



交流会 (回答人数11名)

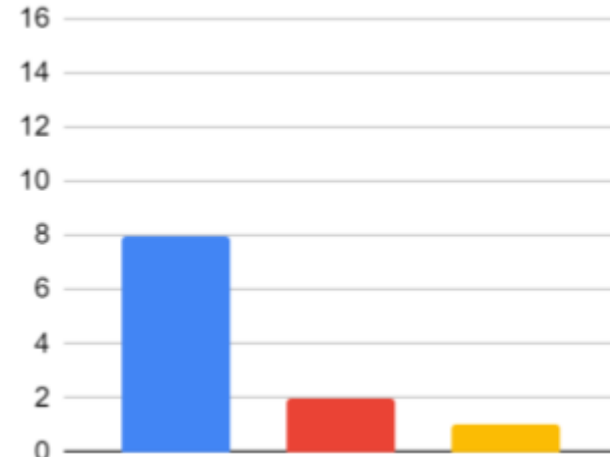
非常に満足した：8名

満足した：2名

どちらでもない：1名

満足しなかった：0名

まったく満足しなかった：0名

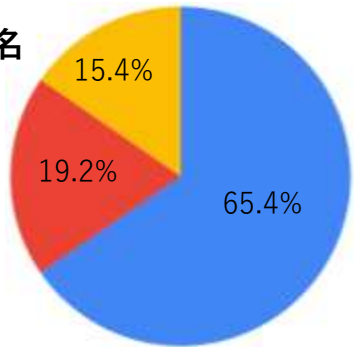


7. 参加者アンケートの結果

開催時間は適切でしたか？

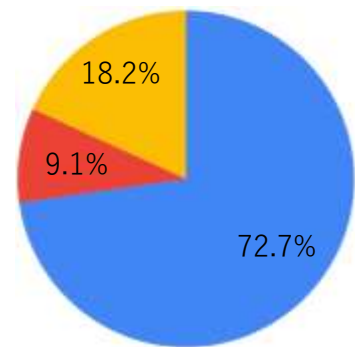
情報交換会 (回答人数26名)

- ちょうどよかった：17名
- 長かった：5名
- 短かった：4名



交流会 (回答人数11名)

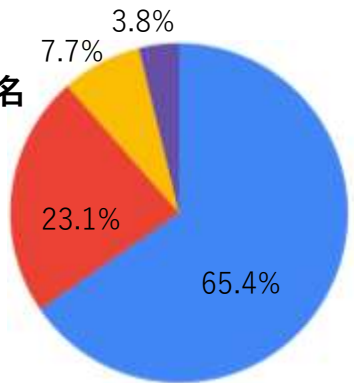
- ちょうどよかった：8名
- 長かった：1名
- 短かった：2名



次回も参加したいと思いますか？

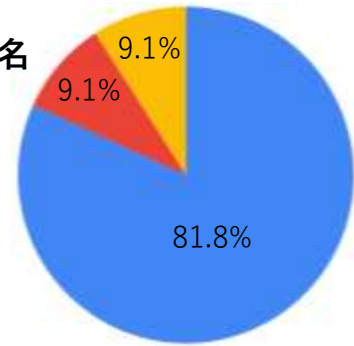
情報交換会 (回答人数26名)

- ぜひ参加したい：17名
- 参加したい：6名
- どちらともいえない：2名
- 参加したくない：0名
- まったく参加したくない：1名



交流会 (回答人数11名)

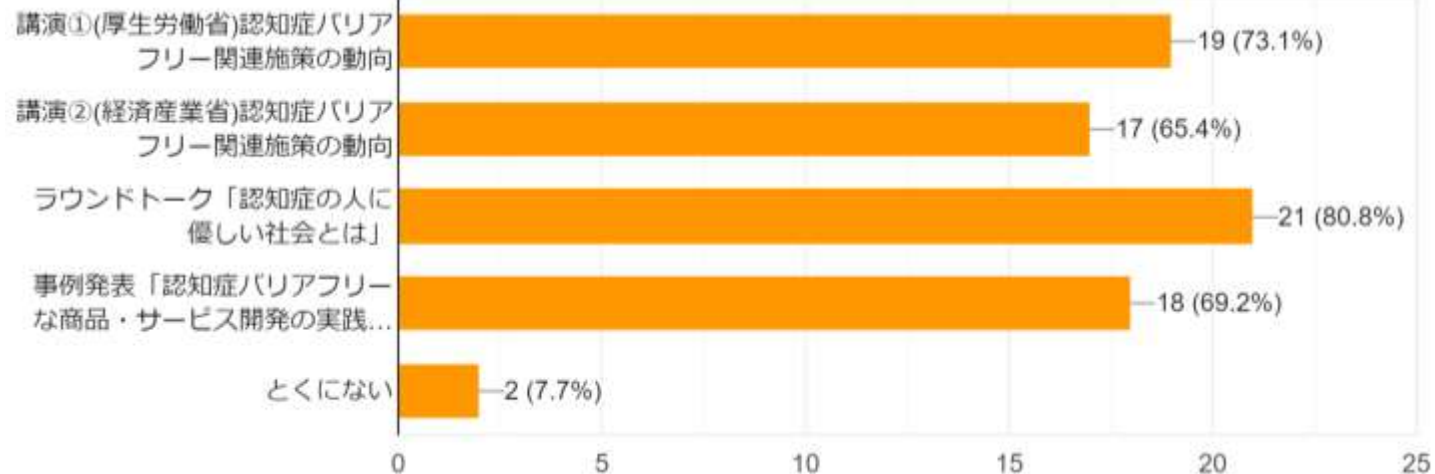
- ぜひ参加したい：9名
- 参加したい：1名
- どちらともいえない：1名
- 参加したくない：0名
- まったく参加したくない：0名



7. 参加者アンケートの結果

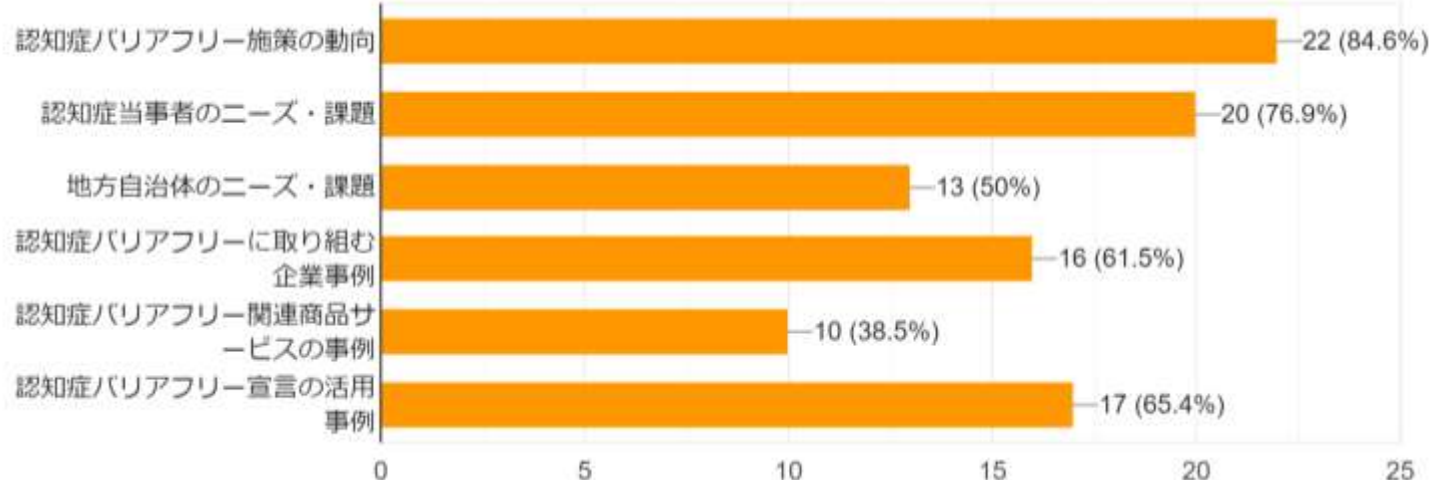
プログラムの中で有益だったとお考えのものをお選びください

複数回答可



今後、更にどのようなことを知りたいですか？

複数回答可



7. 参加者アンケートの結果

情報交換会について、今回参加してよかった点、
次回に向けた改善点やご要望がありましたらご記入ください

自由回答

開催方法について

- オンラインで参加しましたが、ラウンドトークは特に様々なお立場の方の意見をお聞きでき、**現地参加に近い臨場感があった**と思います。(バリアフリー宣言企業/金融)
- オンライン参加可能なので、ありがたいです。(NPO法人)
- リアルで参加をさせていただき、皆様の本取り組みに対する熱意を感じたと共に**交流会では様々な方とお話でき**、その中でこの先の取り組みを協働させていただきたいと感じたことや**施策のヒントをいただけることが多くあり**ました。(民間企業)

など

内容について

- 企業様(起業家含む)の**認知症バリアフリーに対する考え方と製品としての実用性を直に学ぶ**ことができ、大変有意義でした。次回は、コメントで終わることなくディスカッションの時間も十分にあればいいなと思いました。(教育関係)
- 同じ志をもった様々な業種の方々のお話は、どこを切り取っても学びがありとても貴重な時間を過ごすことができました。すべての方とご挨拶したかったのですがお時間もあり、事前に参加されている**会社やご担当者さまのお名前がわかるものがあると**とてもありがたいです。(金融)

など

7. 参加者アンケートの結果

その他のご意見や感想がございましたらご記入ください

自由回答

開催についてのご意見

- 定期的にこのような機会があれば大変助かります。(例えば、2か月に一度程度オンラインで開催しつつ、オフラインは年に2回程度など)。(バリアフリー宣言企業)
- 他企業様との交流がすくない為、大変参考になりました。(民間企業)
- このような集いを今後も継続して、開催いただけると嬉しいです。(金融)

活動についてのご意見

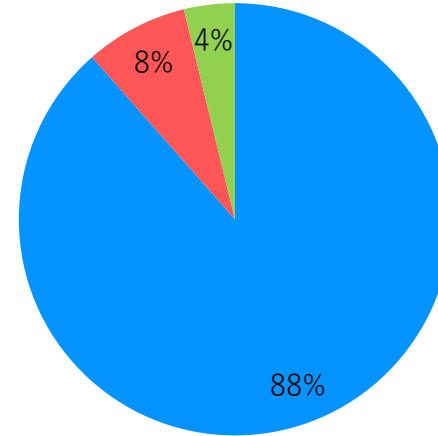
- 宣言企業を増やす取り組みを期待しています。(バリアフリー宣言企業/金融)
- 認知症関連商品を提供される企業が是非宣言をしていただきますよう働きかけの程よろしくお願いたします。(バリアフリー宣言企業/社会福祉法人)
- 2024年1月1日から肝入れ内容となっていく事がまだまだ周知されていない為、全国に向かっての告知のあり方を再度検討してほしい。(バリアフリー宣言企業/社会福祉法人)
- 各社様における職員啓もう活動(他人事ではなく自分事として対応)の具体的な内容についてもぜひご紹介いただきたいと思いました。(特別法人)

など

7. 参加者アンケートの結果

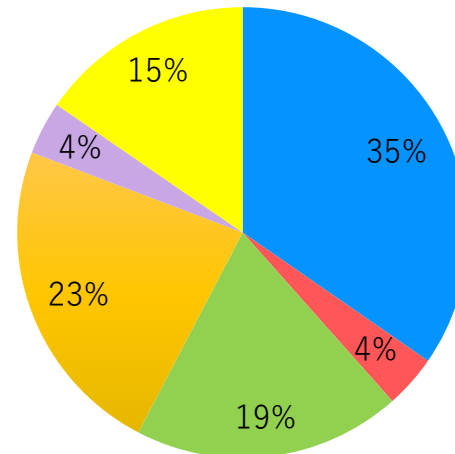
今後はどの開催方法が良いですか？

- ハイブリッド開催（現地とオンライン）
- オンライン開催のみ
- 現地開催のみ



認知症バリアフリー宣言に対する取組状況についてお伺いします

- すでに宣言している
- 宣言に向けた準備を進めている
- 宣言するかどうか検討している
- 未定
- 宣言する予定はない
- 対象外（個人の方など）



7. 参加者アンケートの結果

その他のご意見や感想がございましたらご記入ください

自由回答

参加者組織の活動について

- 認知症に関する取組をグループ内にとどまらず取引先さま・自治体さまと連携しながらさらに取組を加速させていきたいと決意しました。(バリアフリー宣言企業/民間企業)
- 大阪で認知症の人と一緒に活動をしています。ご本人たちの「社会と関わりたい」という声を聴いて何か活動ができないか探していますが、大阪で本人たちが開発に参加できる商品を考えようという会社があるかどうかわかりません。もし、大阪であれば本人たちと一緒に参加をしたいと思えます。(NPO法人)
- バリアフリーの思考を凝らした製品を出すまでに、時間はかかると思いますが認知症の方、そのほかハンディを持った方が住み慣れた町で、暮らし続け働き続けれる会社をつかっていきたいと思えます。(民間企業)
- 作業療法士がきちんと関われるように、自社の課題にしたい。(教育関係)

など

8. 情報交換会の総括と今後の在り方

■参加者の評価は概ね好評

- ・ 情報交換会、交流会ともに「非常に満足した」という声が多く、次回の参加意向も「参加したい(ぜひ参加したい+参加したい)」が情報交換、交流会いずれも約9割となっており、非常に好評であった様子がうかがえる。

■プログラムについては検討の余地あり

- ・ プログラムの中で有益だったものについては、いずれも7割前後となっており、開催時間については約7割が「ちょうどよい」と回答している。
- ・ 初回ということもあり、様々な話題を詰め込んだ総花的な内容で各プログラムの時間を十分に確保することができなかった。そのため、「次回はディスカッションの時間を十分に確保してほしい。」といった意見も聞かれた。

■今後も継続的な開催が望まれる

- ・ アンケート結果からも継続的かつ定期的な開催を期待する声が多いことから、次年度以降も現地開催とオンラインを併用した認知症バリアフリー情報交換会・交流会を開催していくことが求められている。
- ・ 今後さらに知りたい情報として、「認知症バリアフリー施策の動向」、「認知症当事者のニーズ・課題」が7割を超えており、参加者のニーズに応えるためにも厚生労働省、経済産業省、当事者団体等と連携を図り情報交換会を企画していくことが必要である。
- ・ 今回は日本認知症官民協議会等の関連企業・団体を中心に参加を呼び掛けたが、それ以外の一般企業や新聞社などのメディアからの参加もあった。認知症バリアフリー宣言企業からは「宣言企業を増やすための取り組み」を期待する声が挙がっており、参加対象企業や開催エリアの拡大などについても検討を行っていく必要がある。